



<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukuyadai>

# 学校だより

令和6年1月31日

## 2月号

横浜市立横浜深谷台小学校

校長 角井 治朗

### 「体験」したことを「学び」につなぐ

副校長 竹内 智子

「もし、寝ているときやお風呂に入っているときに、指令が入ったら、どうするの?」「そのまま、着替えて出動するんだよ。」「濡れていても?」「そう。」「え?拭かないの?」本校の学区にある戸塚消防署深谷出張所に3年生が見学させていただいたときの消防署の方と子どもたちの会話の一部です。このときは、3年生全員、消火器の使い方もご指導いただき、実際に一人ずつ水入りの消火器を抱え、体験させていただきました。またその後の学習では、学校内や地域に、どんな設備があるのかを知り、この地域で見かける赤い箱が「消火箱」であったことも、初めて知りました。興味をもって自分のまちを見ていくと、今まで素通りしていた消防団の倉庫や備蓄庫等にも気づき、改めて自分の住んでいる地域に様々な施設があり、地域の方々に自分たちが守られていることを実感したようでした。

3年生の社会科では、「地域の安全を守る」という単元で、消防署や警察署について学習しますが、知識として消防署や警察署の役割を学ぶだけではなく、「まち」を守るために、学校や地域の施設や取組、また様々な機関の協力が大切なこと、そして単元の最後には、3年生の子どもたち一人ひとりにもできることを考え、行動していけるようなまとめとなっています。子どもたちは「消防士さんはどんなときでもすぐに出動するのは大変だ。そのお陰で私達は守られていることが分かった。」「消火器は重かったけれど、いざという時は、自分でできると思う。」「なぜ学校は、何度も避難訓練をするのか、その意味が分かった。」「知っていることが増えると、自分にもできることが増えると思う。知ることは大事。」といった感想を挙げていました。元旦に起きた能登半島地震のニュースも、子どもたちが「自分事」として考える大きな要因の一つになっていると思われます。自分で経験し、身近に感じることでできたからこそその子どもの素直な感想ではないかと、感じました。

今年度は、新型コロナウイルスが5類に移行し、学校もやっと今までのような活動を進めていけるようになりましたが、約4年間の影響は、当然、学校にもあります。現在も一つひとつの行事を見直し、新たな教育活動の在り方を考えながら進んでいます。そのような中で、今年度も多くの方々に支えていただきました。学校行事の様々な場面で協力していただいたPTA活動や毎日の学援隊の方々による見守りに始まり、「ふらっとステーション」や「夢カフェ」、地域の農家さんとの関わり、様々なの方々による出前授業等々、その一つひとつが、子どもたちの「安心・安全」や「体験的な学び」になりました。改めて感謝申し上げます。

便利なものが増え、直接その場にいなくてもできることが増え、世の中はますます変化しています。しかし、人と人との関わりを通した「学び」は、どんなに時代が変わって便利になっても、やはり直接「関わる」ことを通して「学ぶ」のが一番です。今年度も様々な方々との関わりを通して学んだことを一人ひとりが振り返り、子どもたちが自分の成長に気づくとともに、次年度に向けて新たな目標が見つけれられるよう、残り2か月を大事に過ごしていきたいです。